

第2回「札幌版次世代住宅基準」に関する技術検討会議の要点・課題・今後の対応

テーマ	委員	要点	課題	今後の対応
シミュレーションにおける前提条件について	福島委員	・ 家族人員4人は多いので、減らした方がよい。	・ 家族人員の見直し。	・ 北海道消費者協会アンケートより算出した給湯用灯油消費量の対象世帯の平均人員が2.8人/世帯であることから、シミュレーションの人員は3人とする。
	斉藤委員	・ 将来はLEDの普及など照明負荷が少なくなることが予想される。	・ ハイレベルの試算の見直し。	・ ハイレベルの試算の見直し。
	繪内座長	・ 照明負荷よりもコンセント負荷の方が大きい。 ・ 資料は、同条件でのシミュレーション結果となっているので、比較としてはこれで良いという考え方もある。前提条件はこのままいじらずに、一般市民に結果を見せるときに、分かりやすく工夫するという手もある。 ・ 実態に即した分かりやすい提示方法については、今後検討していく必要がある。	・ 一般市民に結果を見せるときに、分かりやすく工夫するという手もある。 ・ 実態に即した分かりやすい提示方法について、今後検討していく必要がある。	・ 一般市民にわかりやすい表現とする。 ・ 実態に即した分かりやすい提示方法について、今後検討する。

テーマ	委員	要点	課題	今後の対応
シミュレーション結果、比較表について	今川委員	・シミュレーション結果なので良いと思うが、実態と比べると燃料消費量が少な過ぎる印象がある。	・シミュレーション結果の燃料消費量が少な過ぎる印象がある。	・シミュレーションと実態は異なるということで理解を得た。
	福島委員	・窓種類と熱貫流率について、PVCのアルゴンガス入りLow-Eペアを入れた方が良い。 ・熱貫流率は1.9W/(m ² ・K)程度で、北方型住宅ECOのケースに該当する。 ・国産の木製サッシでも、1.0W/(m ² ・K)程度のものが間もなく出てくるので入れておいた方が良い。	・窓種類を増やす。	・窓種類を増やすこととする。
	今川委員	・玄関ドアの性能レベルについても比較表に記載した方が良いのでは。	・玄関ドアの性能レベルについても記載。	・玄関ドアの性能レベルについても記載する。
	繪内座長	・シミュレーションの基礎データは、ホームページ上でわかりやすく掲載すべき。	・ホームページでの掲載。	・ホームページで掲載する。
付加断熱材について	繪内座長	・高性能断熱材を使うと外壁を薄くできるため、施工性等いろいろメリットがありそう。	・	・
	福島委員	・板状の断熱材を外側に貼って胴縁で押さえるような工法は、今では釘で押さえても問題がないという研究結果がでている。 ・また、木造住宅の耐震性が増すことも分かってきている。	・	・

テーマ	委員	要点	課題	今後の対応
付加断熱材について	繪内座長	<ul style="list-style-type: none"> 高性能な断熱材を外側に持ってきた場合、グラスウールの部分で内部結露するリスクも小さくなるといったメリットがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 	<ul style="list-style-type: none">
	今川委員	<ul style="list-style-type: none"> ネオマフォームやXPSの場合、再生品でないので、ライフサイクルCO2を考えた場合、環境性に関する課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境性に関する課題。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境性に関して検討する。
換気について	福島委員	<ul style="list-style-type: none"> 125㎡程度の住宅の場合、0.5回/hの換気による暖房負荷は、おおよそ4000kW/年くらい。 熱回収効率を70%とすると1200kW/年となる。 回収効率を70%に設定しているのは、キッチンファンや玄関ドアの開け閉めといった換気装置に関わらない換気が0.1回/h程度を考慮したため。 基準ではパッシブ換気も考慮して欲しい。 パッシブ換気は、デマンドコントロールであり、熱交換換気とパッシブ換気のエネルギーの消費量の差はほとんどない。 寒冷地という地域性を生かした手法でもあるため、札幌独自の基準という観点とも合致してくると思うので、ぜひ検討いただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 基準ではパッシブ換気も考慮して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 換気の条項にパッシブ換気を記載する方向で検討を行う。 ハイレベルの自立化検討に熱交換換気とパッシブ換気の評価を追加する。
	繪内座長	<ul style="list-style-type: none"> 熱交換によって予熱するといった意味において熱回収は重要な役割を担っている。 自然換気ではイニシャルコストを抑えることができるといったメリットがある。 設計条件等の違いにより、選択肢があっていいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 設計条件等の違いにより、選択肢があっていいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 設計条件等の違いによる、選択肢の検討。
	福島委員	<ul style="list-style-type: none"> 90%程度の回収効率を持つ機器は、現在100万円程度するので、レベルによって熱交換換気の基準を分けても良いのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> レベルによって熱交換換気の基準を分けても良いのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> レベルによる熱交換換気基準の設定検討。

テーマ	委員	要点	課題	今後の対応
新築素案 4つのレ ベル設定 について	繪内座長	<ul style="list-style-type: none"> ・新築素案では4つの基準を設定したロードマップを示している。 ・スタンダードレベルに重きを置いて一般への浸透を図る展開や、ハイレベルを少しずつでも着実に推進していくといった展開など、様々な方向性が考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な方向性が考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・展開方向の検討。
	岡本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ベーシックレベルは国の先導的レベルであり、さらに2～3割削減を目指すということはかなり目線の高い設定である。 ・ハイレベルに近くなる方が望ましいが、イニシャルコストの増加を考慮すると、目標が高すぎると市民に受け入れられるのかという心配もある。 ・融資の面においても、設備費等のコストがあまり高くなり過ぎると、現実的でなくなるのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かなり目線の高い設定である。 ・イニシャルコストの増加を考慮すると、目標が高すぎると市民に受け入れられるのかという心配もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イニシャルコストの増加分を試算する。
	今川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・国の次世代基準も、強制基準ではなく、あくまで施主判断であるため、達成率が低い。 ・例えば、何年後からは基準を満たさなければ確認申請を受け付けないといったような道筋をつけないと、なかなか増えていかないのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国の次世代基準は、強制基準ではない。 ・何年後からは基準を満たさなければ確認申請を受け付けないといったような道筋が必要では。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基準の義務化は難しいので、ラベリングの方向で検討する。
	福島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・建築基準法は国の法律であり、札幌市独自の審査基準の設定は現実的に難しい。 ・国でも同じようなことは考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市独自の審査基準の設定は現実的に難しい。 	
	繪内座長	<ul style="list-style-type: none"> ・審査規準を厳しくした場合、既存不適格になる住宅の扱いも大きな課題になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存不適格になる住宅の扱いも大きな課題。 	
	福島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパでやられているようなラベリングは実現可能な制度であると思う。 ・例えば、次世代が一つ星、北方型ECOが二つ星、スタンダードレベルが三つ星、ハイレベルが四つ星、トップランナーレベルが五つ星といったような段階分けが考えられるのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ラベリングは実現可能な制度。 	

テーマ	委員	要点	課題	今後の対応
ハイレベル住宅のエネルギー自立化の検討について	福島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近い将来の目標、ロードマップを示すというやり方は、ヨーロッパでやられている手法でもある。 ・ 現状でもお金さえかければ実現可能なレベルでもある。エネルギー的にプラスマイナス0になるような住宅のイメージを分かりやすく描いていると思う。 	・	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近い将来の目標、ロードマップの示し方。
夏対応について	斉藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏対応の視点が抜けていると思う。 ・ 断熱性の高い住宅ほどオーバーヒートする危険性も高くなる。 ・ 日射の侵入率に対する記述があっても良いのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏対応の視点が抜けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏対応についても斉藤委員とともに検討する。
	福島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏対応は、大事な視点だと思う。 ・ 札幌独自という視点にもつながってくる。 ・ 窓の方位別遮蔽率を記載する等、ぜひ検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏対応は、大事な視点。 ・ ぜひ検討してほしい。 	

テーマ	委員	要点	課題	今後の対応
コストについて	今川委員	・ 高効率設備の採用、付加断熱とその下地など、イニシャルコストが相当アップすることになる。	・ イニシャルコストが相当アップ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 概略のイニシャルコストとランニングコストを試算する。 ・ ライフサイクルコストについて検討する。
	繪内座長	・ イニシャルコストの増加について、現状での目安を出すことができないか。	・ 現状の目安の算出。	
	今川委員	・ イニシャルコストの増加分を何年で回収できるのかといった、ライフサイクルコストの目安があると良いのでは。	・ ライフサイクルコストの目安	
	繪内座長	・ メンテナンスコストや設備更新コスト等を含めると分かりにくくなるので、イニシャルコストとランニングコストのみの話にした方が良いと思う。	・ イニシャルコストとランニングコストのみ。	
	福島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の価格を目安にすると、コスト的に元がとれないという印象を与えてしまう恐れもある。 ・ 30年間でランニングコストがこれだけ安くなるという表現だけにするという考え方もある。 	・ 30年間でランニングコストがこれだけ安くなるという表現だけにするという考え方もある。	
	繪内座長	・ 次回は時間軸を入れた議論をしたい。イニシャルコストもおおよその幅の中で提示してもらい、議論を深めたいと思う。	・ 次回は時間軸を入れた議論。	
道との連携について	福島委員	・ 道も同様のことを考えているので、どこかの段階で、議論の場をつくって進めていってもらえればと思う。	・ 道と市の議論の場をもつ。	・ 道と市の議論の場をもつ。